

キヤノン ワールドペーパークラフト 豆知識ブック

世界の建造物シリーズ 日本 東大寺の大仏

東大寺の大仏は西暦745年に基礎工事を開始し、塗金、彫刻、光背の建立までに約26年もの年月を掛けて造られました。何度かの補修により現在の像高は14.98mですが、当時はもっと高く16m余りあったと言われます。1200年以上もの昔に造られた東大寺の大仏は、世界的に類のない巨大な鑄仏です。

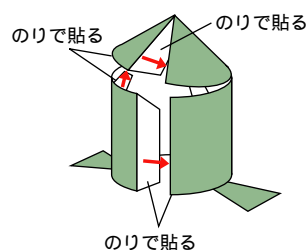


*上の枠を切り抜きましょう。他のペーパークラフトのページも集めると、豆知識ブックが出来ます。

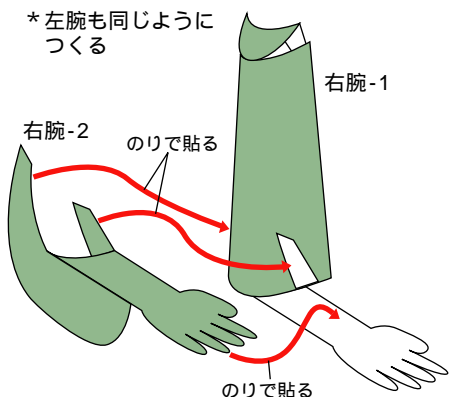
つくりかた

1枚目から4枚目までをプリントアウトして、各パーツを切取線で切り抜き、山折線と谷折線を折ります。

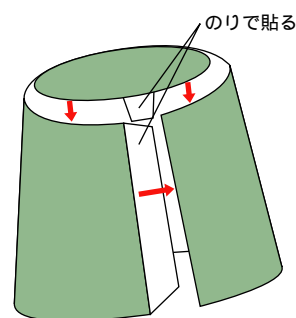
1. 頭をつくる



2. 腕をつくる

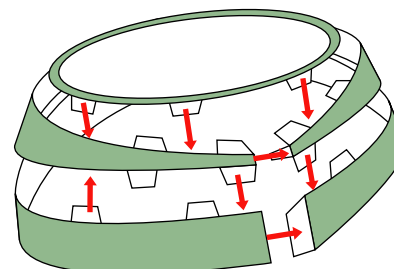


3. 上半身をつくる

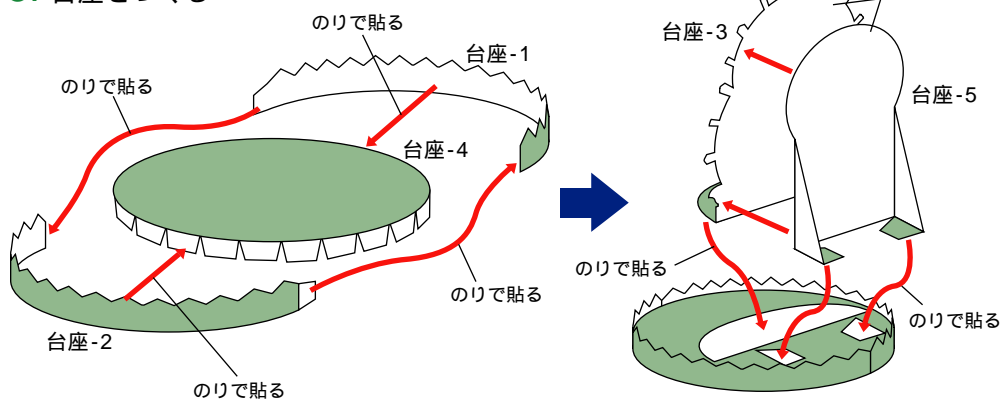


4. 下半身をつくる

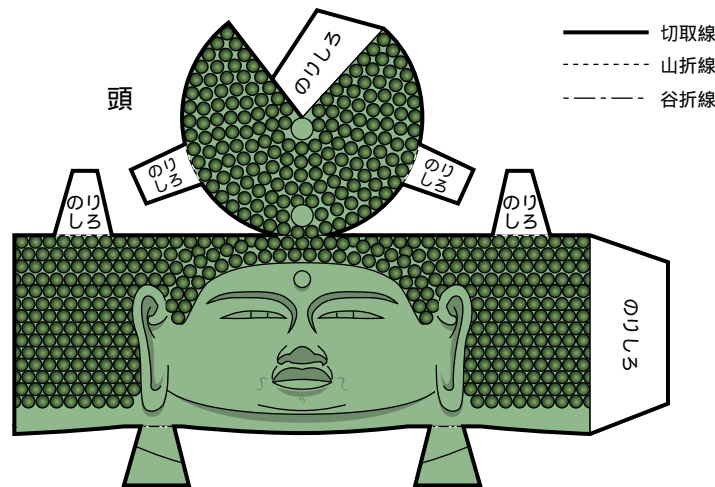
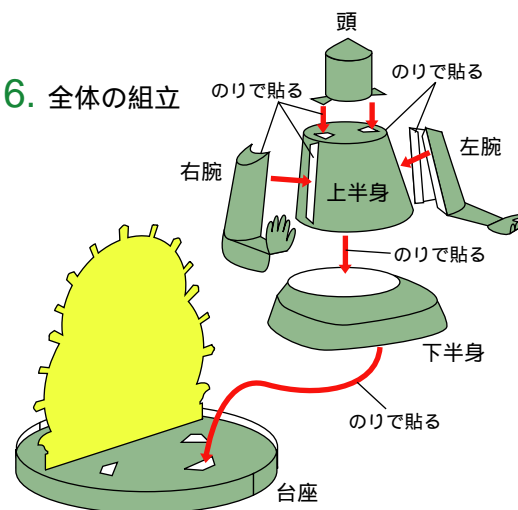
*図のようにのりで貼る



5. 台座をつくる



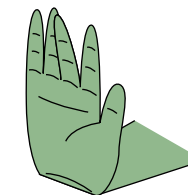
6. 全体の組立



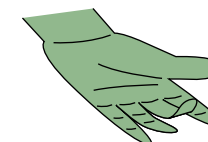
手の形 印相)

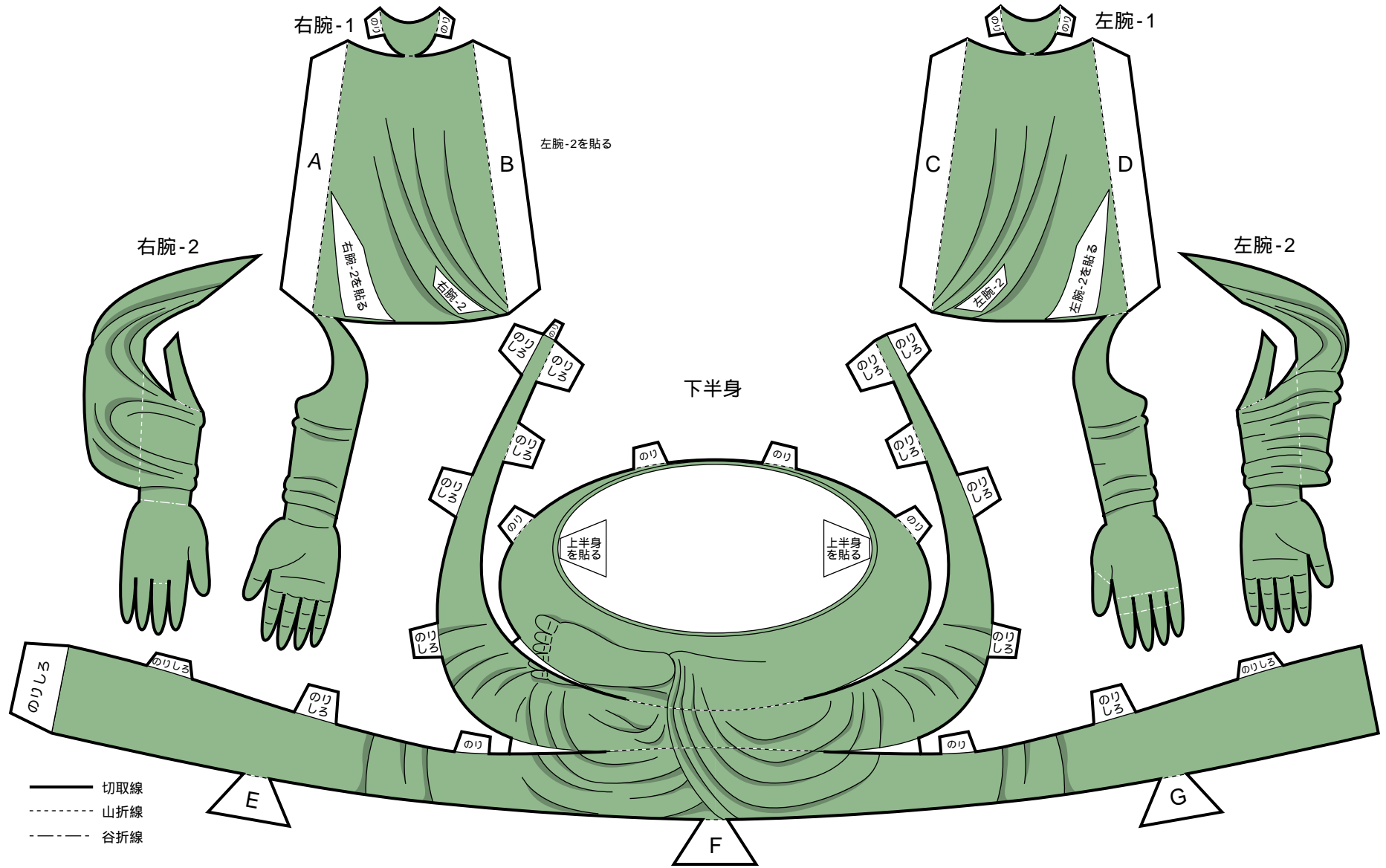
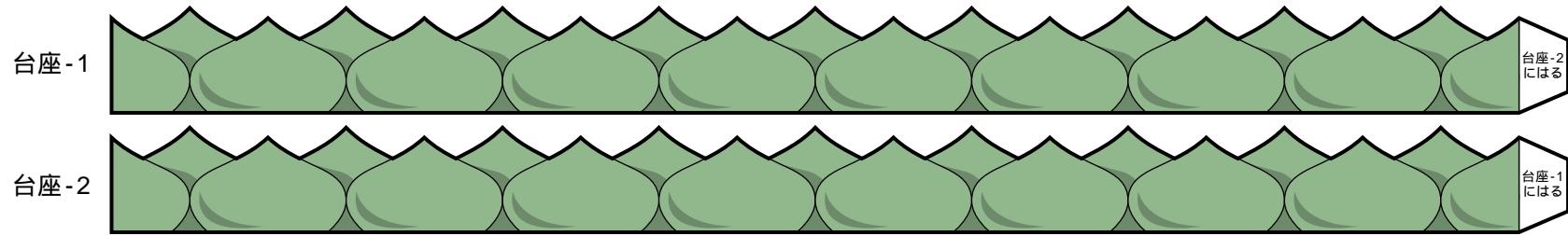
仏像の手の形(印相)は、様々な意味を持っています。東大寺の大仏の印相には、以下のような意味があります。図の形に合わせて手と指を曲げてください。

右手(施無畏印)
人々の恐怖の心を取り除いて救済する形



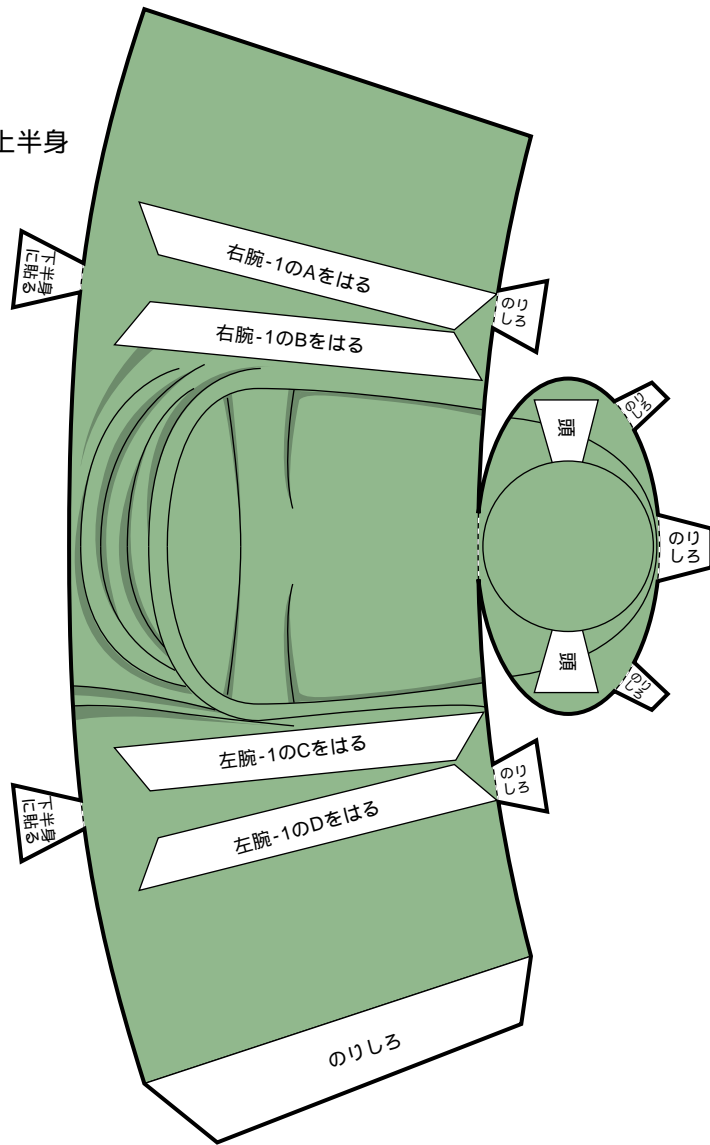
左手(与願印)
人々の願い事をかなえ、恵みを与える形



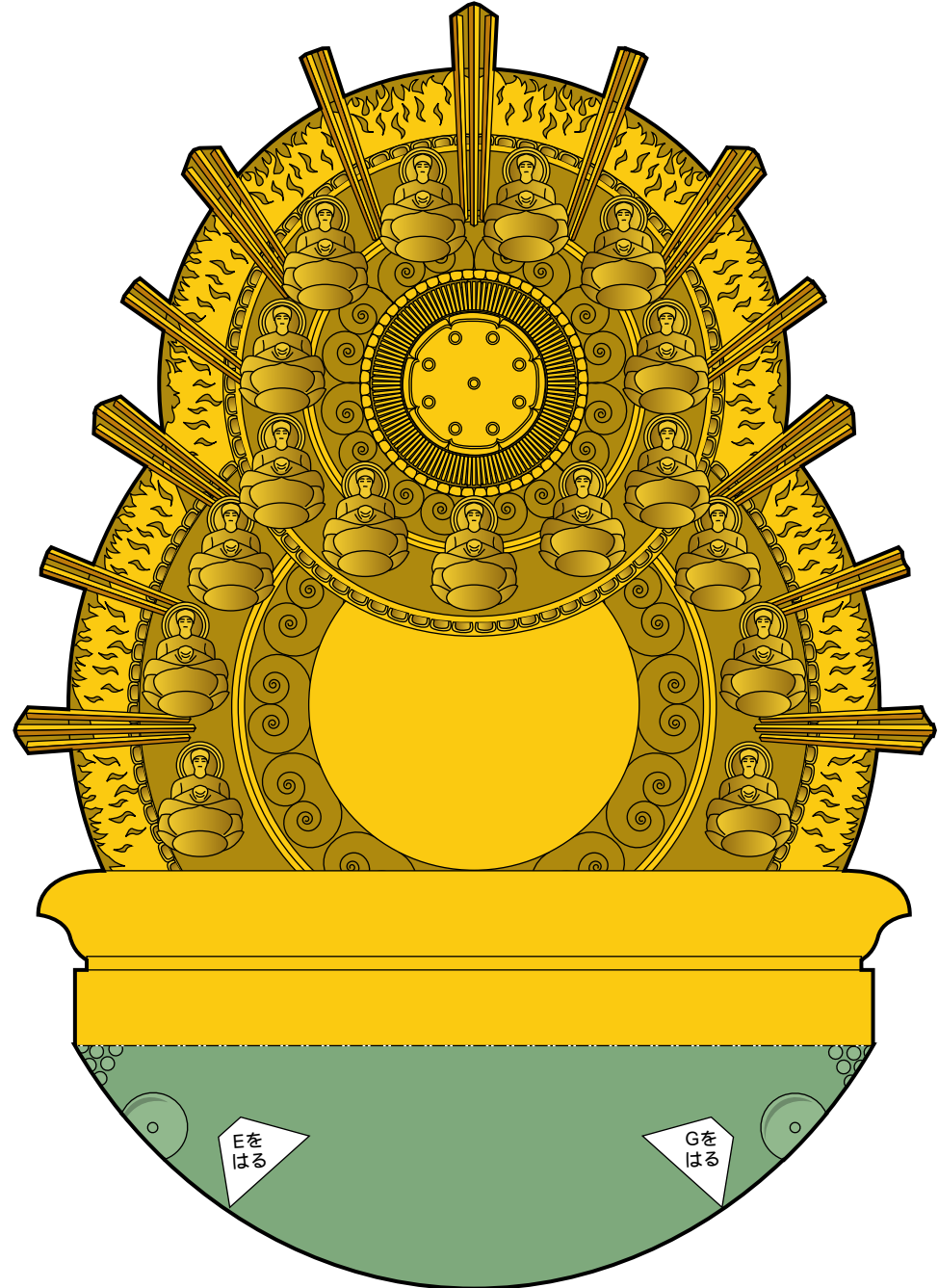


— 切取線
 - - - 山折線
 - · - 谷折線

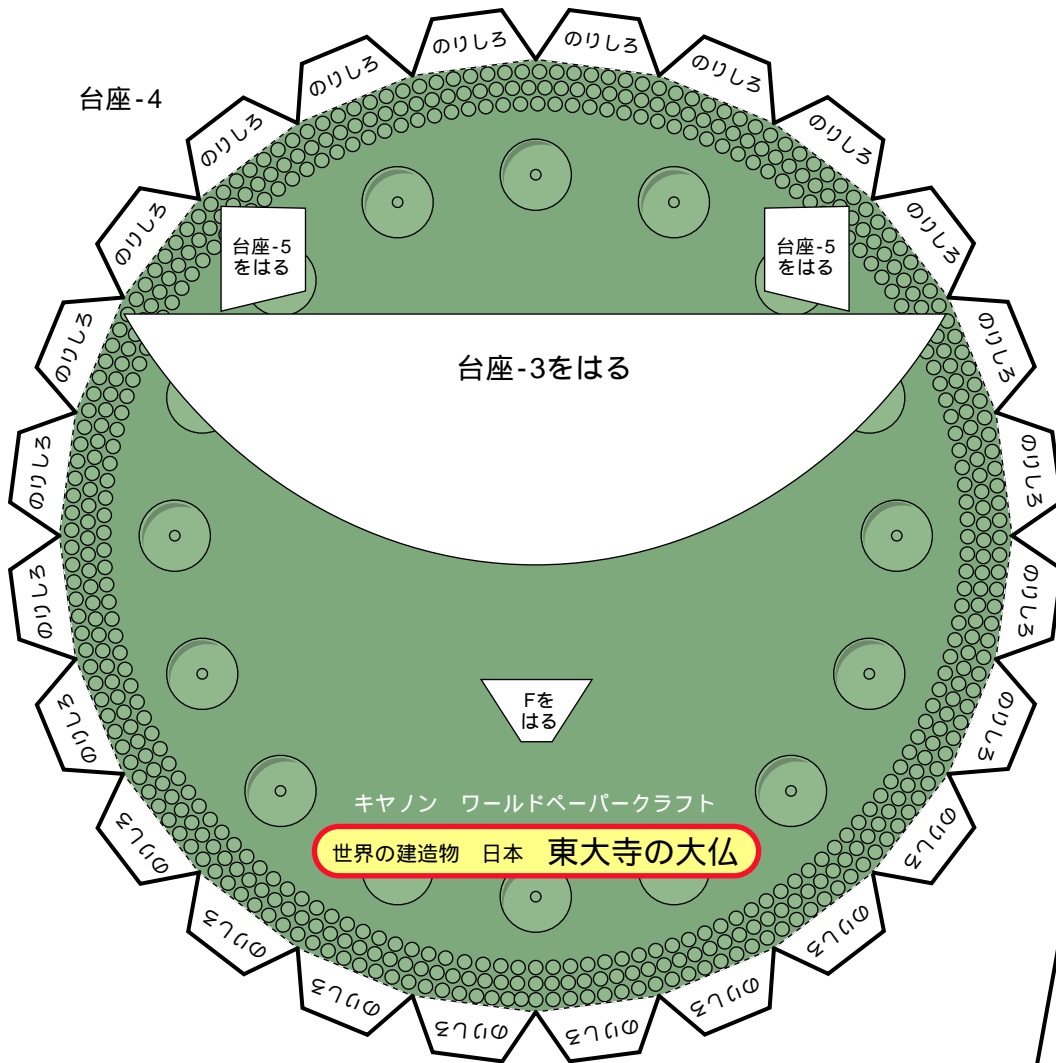
上半身



台座-3



- 切取線
- - - 山折線
- · - 谷折線



— 切取線
 - - - 山折線
 - · - 谷折線

台座-5

東大寺大仏 (盧舎那仏像)

造立	西暦752年
像の高さ	14.98m
使われた銅	約380t
使われた金	約48.4kg

大仏の鑄造

東大寺の大仏はその大きさのため一度に鑄造することができませんでした。そのため、図のように8回に分けて鑄造が行われました。
 まず、木材の骨組みの周りに原型を作り、外型を取った後、銅の厚みの分を削って中型を作りました。
 そして、一番下の部分から銅を流し込んで鑄造し、終わった部分は土で埋め、その上の鑄造を始めます。
 その作業を8回繰り返すことで、このような巨大な大仏を作り上げたのです。

